經濟論叢 毎月一日發行
第四十八卷第二號 昭和十四年二月一日發行
大正四年六月二十一日第三種郵便物認可

京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第四十八卷 第二號

昭和十四年二月

論叢

貨幣的利子論の吟味……文學博士 高田保馬

中小都市における商店街の構成……經濟學博士 谷口吉彦

時論

最近に於ける通貨收縮性の遲緩……經濟學博士 小島昌太郎

事變下に於ける漁村對策……經濟學博士 鯰川虎三

研究

豫想の構造の分析……經濟學士 青山秀夫

莫大小業の生產形態……經濟學士 堀江英一

カルヴンの利子と自然法……經濟學士 澤崎堅造

經營分析における比較の意義と形態……經濟學士 岡部利良

說苑

支那の村落……經濟學士 宮本又次

財政統計の地方比較……經濟學博士 汐見三郎

附錄

彙報

外國雜誌論題

（禁轉載）

彙報

經濟學部

○教授作田莊一氏は定年制により昭和十三年十二月二十四日退官せられた。

○經濟學部歐文紀要 (Kyoto University Economic Review) は本年より年四回刊行することゝなり、その第一號を一月二十五日刊行した。內容は次の如くである。(丸善發賣 定價金壹圓)

On the Budget for the Fiscal Year 1938-1939 — Professor S. Shiomi

The Agricultural Policy in War-Time, with Special Reference to the Maintenance and Expansion of Agricultural Productivity — Professor Y. Yagi

On the General Profit Rate — Assistant Professor K. Shiiata

Government Industries in the Early Years of the Meiji Era — Assistant Professor Y. Horie

Notes

○中等高等教員無試驗檢定に關する件

從來右出願手續きに關しては本學部便覽に依り一般に指示せし處、今般中等、高等教員とも規程改正せられしに依り注意を要望す。

參照 高等教員改正規程 昭和十三年十一月十五日官報
中等教員 同 同 十二月十日 同

經濟學會

○十一月例會 十一月十五日(火)午後六時より樂友會館に於いて開催。次の二つの研究報告が行はれ、それぞれに就いて質問應答が行はれて後、九時五十分に閉會した。

一、輸出莫大小業の生產形態 堀江英一氏

報告要旨——先づ第一に大阪府の輸出莫大小工業における大經營の自己設備の比重は二五—三〇%であり、それが支配する賃加工業者の生產を加へると、大經營は四〇%の生產を擔任することゝなるが、爾余の六〇%が所謂問屋制工業のもとで生產されることを指摘し、第二に中小經營(賃加工業者)の困窮は大經營に對する中小經營の生產力の劣位に基く必然的現象であることを明かし、第三に從つて賃加工業者の組合には加工賃の協定に關し限界があるとし、この限界と役割を說明された。

二、戰時の農業政策に就いて 八木敎授

報告要旨——戰時に於ける農業政策の根本問題は農業生產力の維持とその擴充とである。卽ち一方では、生產力を低下せしめる諸條件があり、生產物の供給の減退が憂はれるに對し、他方では、體位高上・戰爭目的の達成・貿易振興その他の目的のために生產物の需要の增加が要望せられるのであるから、その需給の調和が問題となると云ふことを指摘せられて後、敎授は

農業の機械化問題・勞力の不足を補ふ勤勞奉仕および婦人勞働の問題・耕牛馬の問題・肥料問題・生產計畫化の問題等の內地關係の對策と、ブロック經濟內部の諸問題とに就いて、詳述せられた。さうして最後に、現代吾國の一部にはブロック經濟に於いては內地の農業を粗放化せよと云ふ理想主義的な要望もあるが、それは抽象的な主張であらうと云ふ結論を下された。

出席者――高田・谷口・八木・大塚・中川・柴田・中谷・佐波の諸先生、田杉・青山・田口・石田・山本安・宮本・青盛・堀江英・岡部・中西の諸氏。

○十二月例會　十二月四日(日)午後六時、樂友會館に於いて作田莊一教授の還曆御退職を紀念して送別晩餐會を催し、宴後作田教授より、學徒の師の求め方と研究態度とに就いて報告があつた。宴に會するもの別項の如く三十九名、一同は教授の永年に亙る獨創的なる經濟學へのひたすらなる追求とそれの輝しい御業蹟とを偲び、この度の御退職に對して盡きぬ名殘りを惜みつゝ列席するや、質素なる宴は谷口教授の開會の辭を以て開かれた。高田會長よりの送別の辭に對して、教授より答辭と本學會に對する希望と激勵との言葉があり、中川助教授の閉會の辭がつゞいた。

次に席を階上に移して作田教授の最後の御報告を拜聽した。教授は先づ御自身の學問的遍歷を述べられた。卽ち明治三十八年東大法學部を卒へられるや、國際法の研究のために同大學院に入られ、寺尾・高橋兩教授の指導を受けられたが、教授の學問的情熱は當時より國際法よりも經濟學に向けられてゐたことを、我國經濟學の搖籃期であつた當時の學界の紹介と共に回顧せられ、次いで同四十一年淸國に聘せられて彼地で廣汎なる科目を教授せられたこと、而して後、山口高商から本學へと研究と教授との生活を續行せられたことを物語られた。この間三十餘年の研究の遍歷に就いての極めて謙遜な教授の言々句々の間から、吾々は教授の不屈不撓の旺盛なる研究心と經濟學の實踐學的眞實への一貫せる追力とを聽き取つたのであつた。教授は續けて、學徒が如何に師に就くべきかを述べられた。曰く、求師法には四種のものがある。(一)終始一人の師に就く方法。(二)廣く師を求めつゝ、一人の師を次から次へと壓し倒しつゝ、自らを高める方法。(三)廣く師を求めて謙遜に道を聽きつゝ、遍歷を重ねる方法。(四)多くの師を求めつゝもそれぞれの道を以て足らずとし、得たるものを材料として自己獨創の學問を樹立する方法。此等の方法を省みるに、(一)は例へば德川初期の如き社會の安定期には行はれたけれども、現在の如き社會の變動期には取り難い。社會の變動期に多く取られる方法は、(二)と(三)とであるが、吉川英治著はすところの『宮本武藏』に就いて例を求めるならば、(二)の適例は佐々木小次郎の取つた道であり、宮本武藏の進んだ道は(三)であると云ひ得られる。この二つの道を比較すると、(二)は多くの場合結局に於いて破綻するものであるから、吾人の取るべきは(三)であらう。吉田松陰の下に於ける伊藤博文の態度は宛も(三)に從つたと云ふことができる。(四)に就いては吾々は釋尊に於いて例を見出すのであるが、此道は極めて困難であ

り、又稀少なる場合にしかありえないのである。教授は更に學徒の研究態度に就いて語られ、それに(一)學問に沒頭し「眞理のための眞理」を追求して止まぬ態度と、(二)指令され召されてゐると云ふ意識を以て望む態度とがあることを指摘せられ、その何れの態度を取るかは研究者自身の人となりによつて決定せられるであらうと結ばれた。以上の如き作田教授の御報告は本學會としては稀有のものであると共に、又道を學問に取る者の、通例の報告とは違つた意味に於いて、傾聽三思に價ひするものと云ふべきであらう。その後で、石川教授より作田教授の倦むことなき研究態度に就いて補足的説明が加へられ、一同更に感銘を深くし、教授の御自愛と今後の滿洲國に於ける御活躍とを祈りつゝ、この紀念すべき報告會を閉ぢたのは九時であつた。

出席者――本庄・小島・高田・石川・谷口・八木・大塚・中川・柴田・堀江・中谷・佐波・白杉・島の諸先生、田杉・青山・出口・大谷・菊田・江頭・和田・熊本・山本安・井上次・井上巖・石田・吉川・柏木・相澤・宮本・西藤・前田・青盛・澤崎・堀江英・馬場・岡部・有田・岡本の諸氏。

會員動靜

田畑茂二郎　京都市左京區田中樋ノ口町五ノ九
赤見昌平　西宮市今津町砂田三五一
有田正三　京都市上京區上賀茂前萩町六　足羽德方
雨宮陽造　關東州大連市大山通二番地
市岡乙熊　横濱正金銀行大連支店
東京市大森區池上洗足町二八二

江頭徹　北京崇文門大街　天津銀行北京支店
奥保英　福岡縣戸畑市中原四〇九
尾形常次郎　東京市蒲田區本蒲田五丁目一〇ノ三
蒲池孟　淺野セメント株式會社門司工場
門司市小森江四二六　淺野セメント社宅
川口義明　大日本紡績株式會社本社
大阪市住吉區北田邊町三六〇
加藤啖典　兵庫縣阪急沿線西宮北口　清風園林方
上村鎭威　東亞研究所第三部
東京市杉並區荻窪四ノ五八　斗南莊
片岡氣介　東京市世田ケ谷區玉川奥澤町一ノ四六六
加藤益美　大阪市東淀川區本庄西通二丁目
北陽パンション内（電北四八〇三）
川合光雄　名古屋市　愛知商業學校
川北泰三　名古屋市昭和區東榮町二ノ一一
北海道由越郡長萬部村字靜狩金山靜狩鑛業所
笹隣太郎　滿洲國奉天　横濱正金銀行奉天支店
北野熊喜男　京都市左京區修學院北沮澤町
黑田隼夫　福岡縣八幡市高見町四丁目
久米武　德島市東富田中屋敷
小谷安男　大牟田市平原町二四一　堤寶方
小日山秀夫　奉天市加茂町
三井ビル日滿商事株式會社奉天支店
小池文雄　滿鐵北支事務局軍輸部次長
北京滿鐵北支事務局
黃義東　咸鏡南道長津面三浦里
大同鑛業株式會社長津鑛業所
佐藤一郎　名古屋市昭和區東榮町四丁目四
佐方正　豐中市字麻田一二九一　櫻楓莊二十七號
齊藤茂　茨城縣多賀郡助川町前塚（小學校下）五七九

佐野孝丸　堺化學工業株式會社　大阪府泉北郡濱寺町船尾六二二
篠村文雄　東京市江戸川區小岩町四ノ一九三〇　植草方
篠田孝雄　横濱稅關總務部長　横濱市中區西戸部町二丁目一九〇ノ一
鹽釜光正　大阪市北區梅ケ枝町三〇　淺野要太郎方
清水好雄　滿洲國四平街市中央通一　ツーリスト、ビユロー四
鈴木次郎　山口縣防府市宮市御館
杉彦吉　第百銀行大阪支店　西宮市森具北蓮毛八四六ノ七　昭和園（電西宮八四四）
住川逸郎　新京大同大街滿洲重工業開發株式會社庶務課
鈴木定次郎　東京市本郷區森川町七八　富士見館
竹内佐郎　愛知縣半田市北家下二九
田島弘　富山市星井町七三（電三六六〇）
高田邦彦　京城府大和町二丁目　一號官舍
戸谷和夫　福井市錦上町七七　日本水產株式會社福井販賣所
殿村亦一　大阪府豐中市岡町櫻通リ二丁目
難波勝二　東京市赤坂區青山北町六ノ四二
中村正夫　中華民國北京特別市東長安街十三號　滿鐵北支事務局經理部主計課
中島斌　名古屋市東區石神本町一丁目二二
西山茂　東京市目黑區三谷町一六
沼田龍太郎　東京市澁谷區代々木山谷町四二一
日高元次　滿洲國安東省地方警察學校主事　滿洲國安東市二番通三丁目四
古村令治　京城府黃金町　朝鮮ビル
福内政郎　大日本航空株式會社京城支所營業所
福川篤四郎　兵庫縣武庫郡瓦木村大字高木東犬飼三四九　北支北京滿鐵北支事務局　東京市芝區白金三光町二五九

藤城庸　大阪市外阪急沿線曾根三一七　糸雅方
堀江英一　京都市左京區淨土寺眞如町二四
細溪正次　香川縣高松市楠上町
本間清兵衛　横濱正金銀行本店　横濱市中區宮崎町五八
星孝治　東京市杉並區和泉町七三九（電松澤二九五二）（帝都電鐵永福町驛下車東三丁龍光寺北側）
前田長宗　濱松市松城町　濱松市立高等女學校
前田哲郎　滿鐵本社調査部　大連市黑石礁清風寮内
三宅敏道　株式會社日本製綱所　東京市豐島區堀ノ内町一二五
三卷俊夫　臺灣倉庫株式會社社長　臺北市築地町一丁目八
三ッ本常彦　興業銀行神戸支店　神戸市灘區宮山町二ノ四五
三木了　愛知縣東春日井郡坂下町　万壽寺
茂原祥三　大阪府豐能郡池田町建石町三五七一
横瀨守雄　京城旭町二丁目六六（電本八二六）
吉兼政秀　德島縣撫養町齋田
吉兼弘文　東京市瀧ノ川區瀧ノ川町六九二今西藤三郎方
若林持一　熱河省喀喇沁右旗王爺府喀喇沁右旗公署

會員名簿訂正

五二一頁　有田靖太郎住所欄一一四九ヲ二四〇ノ九ト訂正
二八六頁　藤卷慶夫住所ヲ削ル　藤松佳辰住所長崎縣北松浦郡小値賀村ヲ加フ
二九九頁　增田孝雄住所大阪市東區備後町二大阪信託株式會社ニ訂正
一八八頁　增田義男勤務先株式會社西松組　住所秋田縣仙北郡生保内村田子ノ木ヲ加フ　鈴木七郎住所神奈川縣箱根底倉ヲ存シ東京市向島區隅田町一ノ一三四七鶴岡方　鈴木正長方（昭和十四年一月ヨリ）ヲ削ル